

CASBEE[®]新潟 | 評価結果 |



- 使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアル、CASBEE-新築(簡易版)2010年版
CASBEE-新築(簡易版)2010年追補版(BEI対応)
- 使用評価ソフト: CASBEE新潟(v.2.1)

1. 建物概要

建物名称 建設地 用途地域 建物用途 竣工年 敷地面積 建築面積 延床面積 階数 構造 評価の段階 評価の実施日	(仮称)五十嵐グループ 本社社屋 新築工事 江南区 下早通柳田二丁目10番 他 準工業地域、法22条 事務所, 2016年2月 予定 3,651.94 m ² 900.69 m ² 2,737.94 m ² 地上4F S造 実施設計段階評価 2015年6月1日	
---	--	--

2. CASBEE新潟の評価結果

	B+	$BEE = \frac{Q \text{ 建築物の環境品質}}{L \text{ 建築物の環境負荷低減性}} = \frac{44.0}{40.8} = 1.0$
S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★		

3. 新潟市の重点項目の評価

重点項目	平均スコア	評価	項目	スコア
1. 長寿命化の取組み 誰もがずっと安心して生活するために	3.1		バリアフリー	3.0
			維持管理	3.0
			更新性	3.4
2. 地震への取組み かけがえのない人命、財産、思い出を守るために	3.0		耐震・免震	3.0
			信頼性	3.0
3. 大雨への取組み 大雨につよいまちづくりのために	3.0		雨水排水負荷低減	3.0
4. 自然エネルギー利用の取組み 地球温暖化対策のために	3.5		建物の熱負荷抑制	4.0
			自然エネルギー利用	3.0
5. 資源循環の取組み 持続可能な循環型社会づくりのために	3.3		節水	4.0
			リサイクル材の使用	1.0
			再利用可能性向上	5.0
6. 水と緑を活かす取組み 豊かな田園空間を次世代に引き継ぐために	2.0		生物環境の保全・創出	1.0
			敷地内温熱環境の向上	3.0
7. 新潟のまちなみへの取組み 地域の魅力を伝承・創造していくために	2.0		まちなみ・景観への配慮	2.0
			地域性への配慮、快適性の向上	2.0

4. 新潟市の重点項目の配慮事項

- ・建物の熱負荷抑制に配慮し、外皮の適切な断熱計画を行っている。
- ・資源の保護に配慮し、水栓や便器等へ節水型器具を積極的に採用している。
- ・構造を鉄骨造、内部構成を軽鉄+仕上材とすることで容易に分別可能となっており、再利用の向上に配慮している。
- ・主要道路からセットバックした建物配置、屋外設備機器の屋上設置等により、地域に適した景観形成に配慮した計画としている。

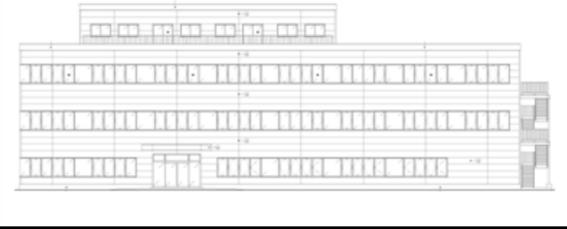
■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

CASBEE[®]新潟

■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアル、CASBEE-新築(簡易版)2010年版 | 使用評価ソフト: CASBEE新潟(v.2.1)
CASBEE-新築(簡易版)2010年追補版(BEI対応)

評価結果内訳

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)五十嵐グループ 本社社屋 新築工事	階数	地上4F
建設地	新潟県新潟市江南区	構造	S造
用途地域	準工業地域、法22条区域	平均居住人員	100人
気候区分		年間使用時間	3,700時間/年
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2016年2月 予定	評価の実施日	2015年6月1日
敷地面積	3,652 m ²	作成者	五十嵐建設工業株式会社
建築面積	901 m ²	確認日	-
延床面積	2,738 m ²	確認者	-



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.0 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B-: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%
②建築物の取組み 78%
③上記+②以外の 78%
④上記+ 78%

(kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです(kg-CO₂/年・m²)

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Q のスコア = 2.7

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.3

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 1.8

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.3

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.6

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.0

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.3

3 設計上の配慮事項		
総合	建物の環境負荷を軽減させることに配慮し、設備システムの効率化による節電、節水を計画。また、周辺地域への良好な景観形成に配慮し、屋外設備機器を屋上にまとめて計画している。	特になし
Q1 室内環境	執務スペースの室内環境に配慮し、空調設備容量及び換気性能を計画。また、喫煙室を設け完全な分煙対応をおこなっている。	Q2 サービス性能 良い状態で建物を長期使用できることに配慮し、耐用年数の長い材料を採用。また、建物利用者の快適な作業環境に配慮し、執務スペースの広さ感やPH階のリフレッシュスペースを計画。
LR1 エネルギー	エネルギー消費を低減させることに配慮し、外壁・屋根の断熱や複層窓により外皮性能を向上させると共に、高効率空調機やLED照明等により設備システムの効率化を計画。	Q3 室外環境(敷地内) 周辺のまちなみや景観及び敷地内歩行者空間等の暑熱環境に配慮し、空調設備の屋外機や受変電設備を建築物の屋上部分に計画。
	LR2 資源・マテリアル 水資源保護に配慮し、節水型の水栓や便器を採用。	LR3 敷地外環境 大気汚染防止に配慮し、燃焼設備を採用していない。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される